

作成日 2010/09/13

改訂日

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	GAPDH Western Blot Set
製品コード	Human GAPDH HYL社 商品コード:9GH5
会社名	フナコシ株式会社
住所	東京都文京区本郷2-9-7
担当部門	コンプライアンス室
電話番号	03-5684-5107
FAX番号	03-5802-5218
推奨用途及び使用上の制限	研究用試薬
整理番号	OTH0052V00

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	<p>火薬類 分類対象外 可燃性／引火性ガス 分類対象外 可燃性／引火性エアゾール 分類対象外 支燃性／酸化性ガス類 分類対象外 高压ガス 分類対象外 引火性液体 分類対象外 可燃性固体 区分2 自己反応性化学品 分類対象外 自然発火性液体 分類対象外 自然発火性固体 区分外 自己発熱性化学品 区分外 水反応可燃性化学品 区分外 酸化性液体 分類対象外 酸化性固体 分類できない 有機過酸化物 分類対象外 金属腐食性物質 分類できない</p>
健康に対する有害性	<p>急性毒性(経口) 区分4 急性毒性(経皮) 区分3 急性毒性(吸入:気体) 分類対象外 急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない 急性毒性(吸入:粉塵) 分類できない 急性毒性(吸入:ミスト) 分類できない 皮膚腐食性／刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷／眼刺激性 区分2 呼吸器感作性 分類できない 皮膚感作性 区分外 生殖細胞変異原性 区分外 発がん性 分類できない 生殖毒性 分類できない 特定標的臓器毒性(単回暴露) 区分3(気道刺激性) 特定標的臓器毒性(反復暴露) 区分2(腎臓)</p>
環境に対する有害性	<p>吸引性呼吸器有害性 分類できない 水生環境有害性(急性) 区分1 水生環境有害性(慢性) 区分外 オゾン層有害性 分類できない</p>

GHSラベル要素
シンボル注意喚起語
危険有害性情報

危険
可燃性固体
飲み込むと有害
皮膚に接触すると有毒
皮膚刺激
強い眼刺激
呼吸器への刺激のおそれ
長期又は反復ばく露による腎臓の障害のおそれ
水生生物に強い毒性

注意書き
安全対策

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。
容器を接地すること。アースをとること。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。
取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
環境への放出を避けること。

応急措置

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。
口をすすぐこと。
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で優しく洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
直ちに汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
火災の場合には、適切な消火剤を使用すること。
漏出物は回収すること。
施錠して保管すること。
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

保管
廃棄

分類に関係しない他の危険有害性
GHSで扱われない他の危険有害性
国・地域情報
重要危険有害性
特有の危険有害性

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学特性	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
ドデシル硫酸ナトリウム (ラウリル硫酸ナトリウム, SDS)	8%	CH ₃ CH ₂ (C H ₂) ₁₀ O SO ₃ Na	(2)-1675 (2)-1679		151-21-3

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし。

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸し
やすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。
直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取
り去ること。

目に入った場合

多量の水と石鹼で洗うこと。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

汚染された衣類を脱ぐこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受
けること。

予想される急性症状及び
遅発性症状
最も重要な兆候及び症状
応急措置をする者の保護
医師に対する特別注意事項

皮膚を速やかに洗浄すること。
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレン
ズを着用して容易に外せる場合は外すこと。そ
の後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当て
を受けること。気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けるこ
と。

直ちに医師に連絡すること。

口をすすぐこと。

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けるこ
と。吸入：咽頭痛、咳。皮膚：発赤。眼：発赤、痛み。経
口摂取：吐き気、嘔吐、下痢。

5. 火災時の措置

消火剤

粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、水噴
霧、二酸化炭素使ってはならない消火剤
特有の危険有害性火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガ
スを発生するおそれがある。

特有の消火方法

摩擦、熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。
激しく加熱すると燃焼する。

消火を行う者の保護

危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却す
る。消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護
衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具および緊急措置直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域とし
て隔離する。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

関係者以外の立入りを禁止する。

環境に対する注意事項	<p>風上に留まる。 作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 低地から離れる。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 密閉された場所は換気する。 環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。</p>
回収・中和	<p>こぼれた物質を容器内に掃き入れる。湿らせてもよい場合は、粉塵を避けるために湿らせてから掃き入れる。</p>
封じ込め及び浄化方法・機材 二次災害の防止策	<p>危険でなければ漏れを止める。 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 可燃物(木、紙、油等)は漏洩物から隔離する。 プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。</p>
7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い	<p>技術的対策 局所排気・全体換気 情報なし。 安全取扱い注意事項 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 眼、皮膚との接触を避けること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 飲み込みを避けること。 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。 環境への放出を避けること。</p>
保管	<p>接触回避 技術的対策 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。排水管や下水管へのアクセスのない場で貯蔵する。 混触危険物質 保管条件 「10. 安定性及び反応性」参照。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。ー禁煙。 酸化剤から離して保管する。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉して保管すること。 施錠して保管すること。 容器包装材料 包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。</p>

8. 暴露防止及び保護措置
管理濃度、許容濃度

	管理濃度 (厚生労働省)	許容濃度 (産衛学会)	ACGIH
ドデシル硫酸ナトリウム (ラウリル硫酸ナトリウム, SDS)	未設定	未設定	未設定

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
換気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具
手の保護具
眼の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。
適切な保護手袋を着用すること。
適切な眼の保護具を着用すること。
保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣、保護面を着用すること。

衛生対策

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質
物理的状態

形状・色
臭い
pH

白色の様々な形状の固体
特徴的な臭気
データなし

融点/凝固点

204℃

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし(分解)

引火点

>100℃

自然発火温度

248℃

燃焼性(固体、ガス)

可燃性

燃焼又は爆発範囲

データなし

蒸気圧

4.7E-13mmHg

蒸気密度

データなし

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

比重(密度)

0.4-0.6g/cm3

溶解性

水に可溶(15 g/100 ml (20 °C))

オクタノール/水分係数

log Pow=1.6

分解温度

データなし

粘度

データなし

10. 安定性及び反応性

安定性

法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。

危険有害反応可能性

燃焼すると分解し、一酸化炭素やイオウ酸化物を含む有毒で腐食性のガスを生じる。

避けるべき条件

強酸化剤や強酸と反応する。
混触危険物質との接触。裸火との接触。

混触危険物質

強酸化剤、強酸。

危険有害な分解生成物

一酸化炭素、二酸化炭素、イオウ酸化物。

その他

11. 有害性情報

急性毒性

類推値
実測値

	経口	ラットを用いた経口投与試験のLD50値1,200 mg/kg (SIDS(1991)), 2,730 mg/kg (EHC 169(1996))のうち、低い値1,200 mg/kgから区分4とした。
	経皮	ウサギを用いた経皮投与試験のLD50値 約600 mg/kg (SIDS(1991)), 580 mg/kg (EHC 169(1996))から、区分3とした。
	吸入(気体)	GHS定義上の固体であるため、ガスでの吸入は想定されず、分類対象外とした。
	吸入(蒸気)	データがないので分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	吸入(粉塵・ミスト)	データがないので分類できない。 ウサギを用いた皮膚刺激性／腐食性試験(OECD TG 404、GLP)において、PII: 6.0, 6.78から「highly irritating」(ECETOC TR66(1995)、IUCLID(2000))と記述されているが、回復性に関する記述がないので区分2とした。
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性		ウサギを用いた眼刺激性／腐食性試験(OECD TG 405、GLP)において、「Modified Maximum Average Scores: 16.00; moderately irritating、59.17; irritating、60.50; irritating」(ECETOC TR48(1992)、IUCLID(2000))と記述されているので区分2とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性		呼吸器感作性: データがないので分類できない。 皮膚感作性: モルモットを用いたMaximization 試験で皮膚感作性を示さない(ECETOC TR77(1999))と記述されているので区分外とした。
生殖細胞変異原性		生殖細胞in vivo変異原性試験の小核試験で陰性(SIDS(1991)、EHC 169(1996))と記述されているので区分外とした。
発がん性		主要な国際的評価機関による評価がなされておらず、データが不十分なので分類できない。 なお、「長期試験は行われているが、発がん性評価には不十分である。動物に混餌投与した試験では、アルキルサルフェイトの発がん性の証拠は得られなかった」(EHC 169(1996))旨の記述がある。
生殖毒性		EHC 169(1996)に記載の一次文献(東京衛研年報(1976))によると、「マウス皮膚塗布による催奇形性試験において、母動物の体重増加が抑制された用量で、受胎率の低下、胎仔重量が低下し、発育遅延を認めた。口蓋裂や骨化遅延もみられるが有意なものではなく、本実験の口蓋裂の発生や着床の問題も含め、経口投与での試験の必要性がある」旨の記述があり、データ不足から分類できない。
特定標的臓器毒性(単回暴露)		マウス、ウサギ、モルモットでのエアロゾル暴露で気道刺激性がみられる(IUCLID(2000))、短期暴露で気道刺激性がみられる(ICSC(1997))との記述から区分3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器毒性(反復暴露)		ラットを用いた2週間混餌投与試験において「肝臓重量増加がみられたラットの病理組織検査で、肝細胞がわずかに腫脹し分裂肝細胞数が増加していた。これらは本物質の投与に順応したものと考えられる。また、腎尿細管の上皮細胞の空胞変性、腎系球体の萎縮がみられた」(EHC 169(1996))旨の記述がある。これらの症状は区分2のガイダンス値の範囲内で見られているが、肝臓における症状は、本物質の投与による有害影響とは考えられないので採用せず、区分2(腎臓)とした。 なお、ウサギを用いた3ヶ月間経皮投与試験では「用量依存性の皮膚刺激性がみられた」(EHC 169(1996))旨のみ記述されている。
吸引性呼吸器有害性		データがないので分類できない。

